

かけはし

44期生 No.26
2022年11月18日(金)

*『世界の果ての通学路』

～子どもたちはなぜ命がけで、毎朝学校に通うのだろう～*

11月14日の総合の時間に、「世界の果ての通学路」という映画を観ました。それは、身の危険をかえりみず、道なき道を何時間もかけて通学する子どもたちを追ったドキュメンタリー映画です。この映画を観て「なぜ学校に行くのか」「なぜ学ぶのか」について考えました。



危険な野生動物が出没するサバンナを15キロ、2時間かけて学校に通うケニアのジャクソン、馬に乗ってアンデス山脈の山々を18キロ、1時間半かけて通学するアルゼンチンのカルロス、全寮制の学校まで、毎週月曜日に22キロの道を4時間かけて通うモロッコのザヒラ、2人の弟に手作りの車いすを押してもらって4キロの道のりを1時間15分かけて通学するインドのサミュエル。この映画に出てくる4人の子どもたちは危険と隣あわせの通学路をひたすら歩いて学校に向かいます。ジャクソンはパイロットになりたい、カルロスは獣医になって愛する故郷に貢献したい、ザヒラは医者になって女の子が勉強できる環境を作りたい、サミュエルは医者になって自分のような障がいのある子どもを救いたい。子どもたちはまっすぐな瞳で同じ思いを語ります。「夢をかなえたいから。」

みなさんの「ふいかえりワークシート」より

・私たちは安全、安心に通学し、学校で勉強できていますが、世界には学校には行けても危険な道を通って行かなければならない子どもたちがいることを知りました。その子どもたちは私

たちが安全に行っている学校も4時間くらいかけて、危険な道を歩いているので、安全に行けることは当たり前ではないのだと思いました。でも、危険な道でも、将来の夢のためなら学校に行くということは凄いなと思いました。それだけみんなのためになりたいという思いもあるんだとも考えました。みんなお互いに助け合ったり、気遣い合ったりしているところがとてもいいなと思いました。

・私たちは何時間もかからず安全に通学し、当たり前で学校で学習することができるけど、映画の中に出てきた子どもたちは、危険で時には命がけで何時間もかけて、お互いに助け合いながらそれぞれの将来の夢のために通学する。私が普通だと思っていたことは世界では普通ではないということを改めて思いました。なので、こうして毎日危険な思いをせず学校に通い、授業を受けられることは幸せなことだと思いました。

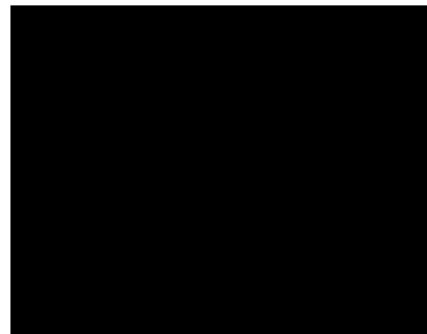
・自分たちは当たり前のように学校に行って授業を受けて帰る。それが日常だけど、映画の中の子どもたちは、通学の道がとても険しかったり長かったりで、普通に学校に行けていなかった。それでも、通学して勉強をしていて熱心ですごいなと思った。この映画を観て、自分たちが当たり前を受けている授業を、どんなに苦労しても受けていたい人がいるということを改めて知った。そして、日常のように学校に通えることのありがたみを感じながら授業を受けて、自分がかねえたい夢をかなえるためにがんばりたい。

・映画の中の子どもたちは、将来の夢をかなえるために勉強したり、努力したりして、学びを深めているのだと感じた。私たちはふだんから毎日学校に通っているからそのありがたみを感じれていないと思った。私は5分で学校に着くけど、世界には何時間もかけて危険な道を通っている子がいて、私にはとうていできないと思った。それでも、世界の子どもたちは勉強がしたいと思ってがんばっていて、私たちとは勉強への思いが全然ちがうのだと思った。そもそも学校に行けない子もいるから学校に行けることをありがたいて思って、これから勉強したい。

・ぼくがこの映画を見て思ったことは、ぼく自身の学びは「めんどくさいな、まあ、近くにあっけいやすいし、いくか。」ぐらいの気持ちで学校に行っています。でも、映画の子どもたちは、自分の夢をかなえるため、いろいろな人を助けるためなど、自分のために命をかけて学校に行っていました。それぐらい学びたいんだなと思いました。ぼくは、あそこまでしんどい道を歩くわけではないけれど、これからの学校での授業の受け方や家での勉強の仕方などを少し変えていこうと思いました。ぼくも、夢のために頑張ろうと思います。

・映画の中の子どもたちの「学び」はすばらしいし、自分もそうありたいと思った。自分の「学び」はやりたくないなと思っていただけ、この映画を観て改めて勉強をがんばろうと思った。映画の中の子どもたちのようにがんばって勉強していきたいと思う。これを見て、「学ばされる」のじゃなくて、「学んでいく」にしたいと思った

・私は、今回の授業で見た映像は小学校の時にも観ました。その時は、小学校に行くだけなのに、なんでそんなにきたがるのか分かりませんでした。私なら、そんなに遠いなら行かないと思います。ですが、今回観たとき、小学校のころに見たときとは感じ方が少し変わりました。前はかわいそうとか、なんでだろうと思っていましたが、自分の夢をかなえるために学校に行っている。学校に行くのがつらくなく、いやでもないという気持ちにきづき、とても感心しました。



・子どもたちはしっかりとした目標をもっていて、その目標のために険しい中でも、みんなで協力して学校に行き、学ぼうとしていた。私たちは毎日安全な道を通って学校に行き、当たり前のように授業を受けている。まずそこが違うと思った。DVDを見て、どれだけ私たちがめづまれているのかがわかった。これからはもっと敬意をもって学習に取り組もうと思いました。世界中のみんなが安全に学校に通える社会になってほしいと思いました。

・この映画を観て思った「学び」の違いは「学び」や「学校」に対する思いの違いです。私たちは普段から10分ぐらいで学校へ行き、当たり前のように学んでいるけれど、映画の中の子どもたちは、何時間もかかる学校に命がけで行き、夢や自分たちの将来のために学んでいて、私たちは大きく違うなと感じました。とても貧しかったり大変な環境にいたりしても、未来のために頑張る彼らを見て、私たちも見習うべきだなと強く感じ、また、私たちの今の「学べる」

環境は、全く当たり前なことではないのだと思い知らされました。これから「学べる」という環境に感謝し、私も自分の夢に向かって頑張っていきたいです。

・映画の中の子どもたちは、「学びたい」という気持ちが強いし、学校に行かせてもらっていることへのありがたさ、それは当たり前じゃないということを知ったうえで学んでいる。でも、私たちは「学校へ行くことは当たり前」「勉強めんどくさい」「友だちに会える」という思いで学んでいる人が多いと思う。勉強できることに対する思いが一番の違いだと思う。私は映画を観て、こんなに命がけで行くほど強い意志があるのだと感心した。命をかけてでも学校へ行くのは、みんな夢をかなえるため、夢をかなえて世の中をよりよくするという目標があるからだと思う。私は学校へ行くことが当たり前だと思ってしまっていたので、学校へ行けることへのありがたさを忘れずにいたいと思った。勉強もできることをありがたく思って取り組みたいと思う。世の中には学校へ行きたくても行けない子どもたちがたくさんいるということを知りたいし、改善するために私ができることをさがしたいと思う。